

日 時 令和5年2月9日(木) 18:30~20:00

会議様式 オンライン会議(ZOOM)

## 1 活動報告

### (1) 地域資源情報データベースシステム「くれ福祉のお役立ちサイト(しとってクレ)」の導入について

御意見, 質疑応答なし

### (2) 呉市在宅医療・介護連携に関する相談実績について

(折本委員)

病院の事情を踏まえてお伝えしたい。HM ネットの利用促進について、当院の病棟数は10以上あるが、HM ネットの端末は院内に3~4台しかなく、設置場所も限られているため、病棟看護師は使用することが難しい。また、地域の病院とHM ネットのTV会議システムでカンファレンスをしようとしたが、診察室に端末があり難しいと言われた。HM ネットは、タブレット対応が難しいため使いにくいのが現状である。今後の改善点ではないか。

入退院支援において、患者や家族の意向確認や入院前の状態把握が不十分なことから、退院時にケアマネジャーに迷惑をかけていることがあると思う。ケアマネジャーとの関係性ができてきたと思うと、職員の異動等で連携が進まないということを繰り返している状況もある。具体的な事例を教えていただき、病棟にフィードバックすることで少しでも連携が進んでいけばと思う。できる限りのことをしていきたい。

情報共有において、看護紹介状やケアマネジャーへの情報提供書を病棟看護師に依頼すると、「報酬にならないのに書かないといけないのか」と言われ、入院前の情報提供を地域包括支援センターに依頼した際も同様の回答だったことがある。また、「利用者の状態に変化がないのに情報提供書がいるのか」と言われたこともある。医療・介護関係者が相互に適切な情報共有をするためには、病棟スタッフも地域とつながっていかないといけない。齋藤コーディネーターに入ってもらい、直接顔の見える関係づくりができないか。病院側も同様に情報共有の課題がある。

(齋藤コーディネーター)

次年度に円滑な入退院支援に取り組むにあたり、今後の展望を含めて後ほど御説明させていただきます。

(石井委員長)

急性期病院を含めて、診療報酬にのらないとなかなか進んでいかないという面があるのではないか。

(宮下委員)

加算報酬がネックとなって連携がとれないというのは残念に思う。ただ、在宅側から情報提供しても病院側からフィードバックがなく、結果として病院の計画立案等に役立っているためだけかという声がある。逆に病院側も同様のことがあると思う。情報提供したことがどのように活かされて自分たちに帰ってくるのかが見えないため、行き違いが生じているのではないか。お互いのために情報共有するという認識をもつ機会が必要であ

と思う。来年度は、齋藤コーディネーターに入ってもらい、病院側と在宅側で議論できる場づくりができないかと思っている。

(越部委員)

入院時はできるだけ早く情報提供を行い、連携を図るために各事業所が取り組んでいる。入院時情報提供書は、医療機関へ持参しているのが現状であり、HM ネットを活用することで迅速に情報共有ができると思う。提供した情報がどう活かされるのか、いかに情報共有をして連携を強化するかなど、情報共有の在り方を考えていかなければいけない。また、ツールの活用方法やHM ネットを浸透させていくことも課題であり、呉市としての取組を検証できればよいのではないか。

(石井委員長)

医療と介護双方が情報をやり取りするとともに、情報がどのように使われているのかという認識を共有できればいいのではないか。

### (3) 第1回在宅療養を支えるスタッフのための多職種連携研修会の開催について

(石井委員長)

参加した医師から、具体的な症例や役に立つような知識が得られる研修会があるといいいのでは、との御意見をいただいた。

(齋藤コーディネーター)

御意見を参考に、今後も企画・実施していきたい。

### (4) アドバンス・ケア・プランニングの地域住民への普及啓発について

(折本委員)

家族がいない、あるいは家族が遠方にいる患者から相談を受け、人生の彩ノートの一部と一緒に書いたことがあるが、緊急時の本人が書いた意思の共有について結論が出なかった。以前、人生の彩ノートを民生委員に渡していて、急変時に情報共有することができたという事例もあった。緊急時の共有方法について一緒に検討したい。

(石井委員長)

地域によっては、本人が書いたものを冷蔵庫に入れておいて、搬送時に救急隊が医療機関に持っていくと聞いたことがあるが、消防局でそのような情報はるか。

(上瀬委員)

現場では冷蔵庫内で発見したという事例は聞いていない。

(石井委員長)

事前に関係機関で取り決めをしないとうまく使えないのではないか。私の心づもりをどう活用するか、検討しながら進めていただきたい。

## 2 議題

### (1) 呉市版退院前カンファレンスオンライン実施のための手引き（最終案）について

(上瀬委員)

救急隊の車両端末からHM ネットの「電子版命の宝箱」が閲覧できるように整備している。今年度末を目標にアプリをインストールする予定。命の宝箱では、かかりつけ医や既往歴等が閲覧でき、救急搬送時の病院選定などに活用しようと考えている。

(石井委員長)

それは広島県の事業として進めているのか。

(上瀬委員)

県医師会の事業である。

(石井委員長)

呉市でも活用できるように検討いただきたい。また、HM-BOXを活用した患者情報の共有の設定例（最終案 p.6）で、「Dr」は「医師」でよいのではないか。

(齋藤コーディネーター)

「医師」と修正する。

(石井委員長)

最終案を本委員会として承認する。事務局から委員へ最終版を送付する。

## (2) 入退院支援について

(石井委員長)

円滑な入退院支援ができるように、医療と介護の情報共有方法や仕組みづくりについて、具体的な検討方法などの御意見をいただきたい。

(折本委員)

ソーシャルワーカー協会は、呉市の病院の3分の1しか加入していないため、病院単位での話し合いが必要ではないか。コロナ前は呉市医師会病院が調整役となり、急性期5病院の地域連携室が集まり定期的に話をしてきた。病院として依頼をいただき、検討ができればいいと思う。

(石井委員長)

病院は診療報酬に関連した流れがある一方で、中小の病院や診療所の窓口が分からないという指摘もある。介護報酬については医療側が知らないこともあり、お互いを理解することが必要である。疾病によっては、連携パスを使って急性期病院、回復期病院、外来などで情報共有する仕組みがあるため、そういう形で医療と介護も情報共有する仕組みをコーディネートできるといい。

(越部委員)

窓口がその都度変わってしまうと連携がとりにくくなるため、窓口が明確になることは重要である。病院などの窓口が分かるようなものがあれば、たらいまわしや煩雑さがなくなり、スムーズな連携に繋がるのではないか。そういった話し合いができればいいと思う。

(石井委員長)

医療機関の窓口などについて、しとってクレには掲載されるのか。

(齋藤コーディネーター)

関係者が相談できる窓口について、しとってクレの掲載情報に関するアンケートで情報収集している。また、医師との連携が図れるように、医師に連絡をとる際の第一手段階や希望する時間帯などを収集し、関係者間で連携が図れるように準備を進めている。

(越部委員)

しとってクレが更新されるとのことなので、確認できるツールなどを効果的に活用できたらいい。

(齋藤コーディネーター)

掲載情報は随時更新をしたい。ぜひ検索をしていただきたい。

(折本委員)

問合せの内容によっては、1つの窓口で対応しきれないのが組織の現状であり、複数の窓口になるかと思うので、様々な情報提供ができればいいのではないか。しとってクレの掲載情報に関するアンケートは、どちらかというとな開業医向けであり病院の規模に応じた内容ではなく、回答が難しかった。

(石井委員長)

病院の規模に応じて改良をお願いしたい。

(齋藤コーディネーター)

今後、掲載する情報を分かりやすく収集していきたい。また、円滑な入退院支援の仕組みづくりについて、まずは急性期病院である呉医療センター、中国労災病院、呉共済病院と、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などで集まり、病院ごとに地域性に即した仕組みづくりを検討してはどうか。

(折本委員)

呉市医師会病院、済生会呉病院も加えた方がよいのではないか。

(石井委員長)

もともと5病院の会として話し合う会があったので、それを発展させてほしい。ぜひ呉市医師会病院も入れていただきたい。

(齋藤コーディネーター)

ぜひいろいろな病院や介護関係者と共同しながら成果物を作ることができればいい。

- (3) 令和5年度 呉市在宅医療・介護連携推進事業 実施要領（案）について  
御意見，質疑応答なし

### 3 その他

#### (1) 委員の継続について

委員の任期に定めがないため、所属団体の人事異動等で委員交代等の変更がある場合は、呉市高齢者支援課へ御連絡いただきたい。

#### (2) 市民公開講座について

「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）市民公開講座」を令和5年3月11日（土）13:30～15:30にオンラインとオフラインのハイブリット形式で開催する。また、地域資源情報データベース「くれ福祉のお役立ちサイト（しとってクレ）」に説明を併せて行う。ぜひ参加していただきたい。

以上